
コンテッサクラブ、ホームページ開設

江澤 智

PD誌（会報）に戻る

その昔、グーテンベルグが印刷機を発明し、また、最近では金の支払について、現金紙幣からクレジットカードなどに変わるなど技術の進歩の文化の変革があった。僕は我々が丁度今、そのような分野について紙の文化から電子の文化に変わる時代にいるのではないかと考えている。NHKがハイビジョンを仕掛けたが失敗が明らか（時代の流れに遅れをとった当のNHKはまだ認めがらないようだが）のようにデジタル化の時代に突入しようとしているのだ。そんな中の技術や文化の中心的存在が世の中を騒がしているインターネットだとかウェブ（WEB）だと言って良いだろう。そんな文明の利器をクラブの武器に使う話である。ここにその概要を出来るだけ簡単に紹介する。

昨年のJCCAのニューイヤーミーティングで試しにコンテッサのインターネットのホームページをデモしてみた。多分旧車のクラブでは日本で初めてではなかっただろうか？これがなかなかの好評で、何時からちゃんとやるのかなど結構問合わせが多かった。昨年の総会では会員紹介などの方法としてインターネットが話題に上がり、ビデオに変わる方法として承認された。その後、当の言いだしっぺは、糸の切れたタコのごとく、何もせず。しかし、この正月にガンバリました。1月の末にテスト的に『日野コンテッサホームページ』ができ上がり、URL（ユーアーエルと言います。これはホームページの住所にあたります。世界で唯一のもの）もめでたく『www.hinocontessa.com』を得ました。

しかし、実際はホームページ、インターネット、電子メールなんていったところで聞いたことはあるものの実際手にしてる人達はそんなに多くはないのだろうか？どんなものかを簡単に説明しておこう。まず、インターネットとは全世界をカバーしたネットワークとでも言おう。これは、大は大型のコンピュータから小は家庭にあるパソコンの接続を可能なる代物とだ。世界中、蜘蛛の巣（WEB：ウェブという語源はここにある）のごとく接続されて、お互いに会話は出来る仕組である。この蜘蛛の巣のネットワークはまことによく出来ており、どこかが切れても自動的につながっているところを使用してつながる仕組になっている。絶対に死なない仕組である。このインターネットの技術は米軍の冷戦時代の最大の遺産でもあることを付け加えておこう。

そこでインターネットの上で何が出来ようと言うと、これが多種多彩で、身近なもので電子メール、大きなものでは電子モール（ショッピングセンターみたいなもの）、果ては電子決済など新聞を賑わしているのである。ここで米国が言い出した『インフォメーション・ハイウェイ』を忘れてはならない。情報高速道路でとも、言おうか、ゴア副大統領が3年ほどに提唱

したのである。これはインターネットを進化させて、大量の情報が送れる高速なネットワークを全米にひく計画で現実にその建設がすでに進んでいる。それにより、新聞のような情報は勿論、テレビ、買い物などインターネット利用をさらに進めるものであろう。忘れてならないのは40年ほど前に米国がハイウェイ構想で全米に高速道路を建設し、それを基にショッピングセンターや住宅地など造られ、社会の仕組みは変えられたことである。実はその計画を提唱したのがゴア副大統領の父親だったのだ。今度は息子はインフォメーション・ハイウェイで社会の構造や文化を塗り変えようとしているのだ。いままでクルマなどで動いていた物や情報がネットワークや電子化するのである。

電子メールはいままで郵便で行き来した手紙を正に家庭から瞬時に世界中に送ることが出来るのである。インターネットの成せる技で1-2秒で届いてしまう。これは同じ電子メールでもニフティサーブの様な古いメカニズムではそうは行かない。しかも安いのである。それには写真でもなんでも電子情報ならば小包のごとく送ることが出来る。また、望むならば、最近では電話やテレビ会議まで使うことほどこの分野の技術の進歩が止まらない毎日である。

そんなインターネットの上での応用がホームページである。『ホームページ』の言われは丁度、家庭や会社にあたるもので、その家庭なり会社なりに行けば（インターネットでは電子的に）、その相手がドアを開けてくれれば、その家庭なりや会社なりを紹介してくれたり、はたまたビジネスまでしてしおうという代物である。これはスゴイと言わざるを得ない！ここでホームページに住所があると言うことがお分かりいただけよう。このホームページにおよそ次の種類がある：

- 個人：これは個人の家庭や個人自身の紹介。趣味を紹介したり、クリスマスに世界中の親戚に近況などを知らせたり、色々。どちらかと言うと一方通行。
- 宣伝：企業の宣伝や団体の情報発信。今までその会社に行かねば情報がとれなかったり、郵便でないと製品のカタログが取り寄せられなかったのが瞬時に見たり、取り寄せたり出来る。
- 商売：カタログ販売みたいなものであり、画面で見ながら注文し、必要であれば電子決済し、品物が送られてくる。または設計のデータを電子的に渡すなどその応用は無限である。

我々のホームページは丁度、この2番目にあたる。そんな訳で今年の総会の様な話になった。ところで、ただ、この種の技術すなわちインターネットについて、日本独特の現象だが、どうしても新聞／雑誌やテレビなどのメディアがミーハー的な言い方をするものだから歪んだ状態がある。何だか黒船来襲的な見方になったり、電子メールやパソコンに見られるように企業の中の高齢者がその餌食にされたり、まったくとんでもないと思う。もっと地道なもので時間がかかる壮大なものなのだ。重要なことはこの様な技術は論ずるよりはまずは使うということで、それも地道に、と言うのが大切でないだろうか？

そんなこんだで昨年以來、この新しい時代に向かってコンテッサのホームページを作りたいものだと考えた次第だ。僕個人では、中味（どうしても日本のホームページは見てくれの趣味性が強調されすぎる）を重視したい。それもコンテッサというものを歴史上、ちゃんと次の時

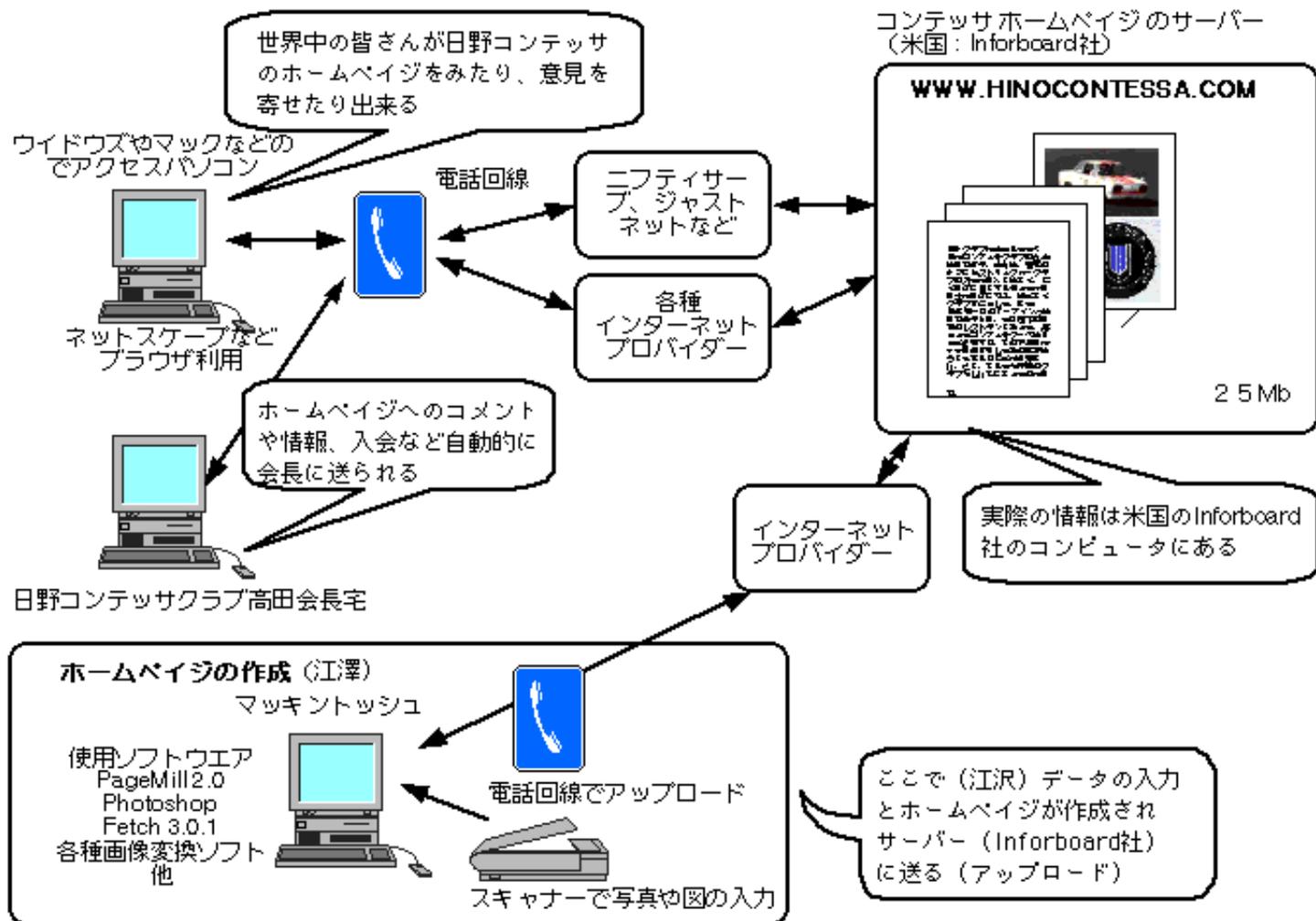
代に知らせたいし、クラブの皆さんの人間味ある人生の一部を知らせるなどに使えればと考える。僕自身のコンテッサに関する資料が数多く集まりすぎ、その公開出来る方法とも考えたのも始まりである。

取り敢えず以下の様な情報を載せている：

- 日野コンテッサクラブのご紹介
- 頑張れ、チームレンジャー日野 -- '97ダカールラリー-速報！カミオンクラス総合優勝果たす！！
- PD誌（会報）より
- 会員&愛車紹介
- 日野コンテッサ小史
- イベント報告
- 日野コンテッサ関係掲載記事
- カタログライブラリー
- 関連ホームページリンク
- バーチャル コンテッサ大地に戻る
- WANTED!!
- FAQ（コンテッサに関する質問）
- 日野コンテッサクラブへのお問い合わせやコメント

当初は独断と偏見をベースにしたものにならざるを得ないだろうが、折をみて、会報やミーティングなども通じて内容の向上や改善を得て進めたい。それもコンテッサクラブの伝統でボチボチと長続きさせたい。

<日野コンテッサ ホームページ の概略>



[PD誌 \(会報\) に戻る](#)